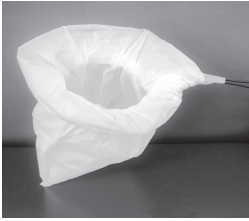


牛久のわんこ



春山家(栄町)のゴンちゃん(雑種 / オス / 18歳)

8年前につくば市内で迷子になっていたゴンをお母さんが助けて牛久の家に来てきました。最初は一人でお留守番ができず、お母さんと一緒に会社に行っていました。今は、一人でお留守番しています。フェンスから顔を出すと散歩中の人が「ゴンちゃん」と声を掛け、頭をなでてくれます。散歩中は、春山さんお手製の「フンキャッチ」が大活躍です。

※あなたとワンちゃんのエピソードを聞かせてください。

※掲載希望の方は、市環境政策課(☎内線1563)か下記あて先まで、住所、氏名、電話番号に写真とエピソードを添えて郵送または、Eメール(kankyoku@city.ushiku.ibaraki.jp)でお送りください。

応募先 〒300-1292 牛久市中央3-15-1 牛久市役所環境政策課「牛久のわんこ係」

※市環境政策課のホームページから、犬・ネコの保護情報(預かっています)・逸走情報(探しています)を確認できるようになりました。お心当たりのある方は、市環境政策課までご連絡ください。



【ドッグラン市民無料開放日】10月6日(水)、24日(日)、27日(水)

問い合わせ ツインギー・アンド・パラダイス(猪子町832-5)☎886-6616

～犬の散歩時に気を付けること～

①ふん尿の処理をきちんとしましょう！

散歩の時は、必ず処理袋を携帯し、ふんは自宅に持ち帰って処理しましょう。場所によっては、排尿の跡を水で洗い流すなどの配慮も必要です。

聖 小川 芋 銭

芋銭と俳句雑誌『ホトトギス』①

小川芋銭は、俳句雑誌「ホトトギス」に、明治43年から昭和13年まで、数多くの挿絵を掲載していました。「ホトトギス」とは、明治30年に創刊し現在まで続いている俳句雑誌であり、当時の選者には正岡子規、高濱虚子、河東碧梧桐らが名を連ねていました。「ホトトギス」と芋銭の出会いには、挿絵の掲載が始まる10年前までさかのぼります。今回は、挿絵の掲載が始まる

以前の芋銭と雑誌「ホトトギス」とのかかわりについて解説したいと思います。当時芋銭は、父の命により牛久に帰農しており、農作業の傍ら取手の「水月会」に参加し、俳号を牛里と称し、俳句を投稿していました。その活動が認められ、「ホトトギス」明治32年1月発行号の中にある「明治31年の俳句界」(※1)記事中の地方俳句分布の表に、常陸で活躍している俳人として名前が取り上げられました。全国で発行されている俳句雑誌に名前が掲載されるということは、芋銭が俳人として認められたということを意味しています。更に翌年の明治33年1月発行号では、地方俳句会記事に俳句が紹介されます。

水月会「冬枯の桑東ね居る翁かな」

同年7月発行号では募集俳句に応募し、3句が初めて選に入ります。このときの題は「酒」と「茶」。「酒」の選者は子規、碧梧桐。「茶」の選者は坂本四方太で、酒で1句、茶で2句入選しました。

題：酒 「清水汲んで酒の香残る瓢かな」

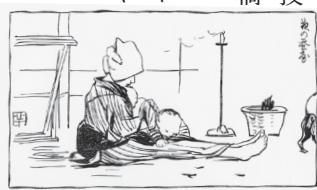
題：茶 「梅干して二番茶つむや岡の家」

「朝の間の山柵子活けし茶室哉」

このように芋銭は、次々に「ホトトギス」に俳句を投稿し、入選するようになり、その後は募集絵にも投稿するようになります。

(※1)「明治31年の俳句界」は、全国誌であるホトトギスのネットワークを通じて明治31年当時の全国で活躍している俳人の情報や有望な新人を紹介している記事であり、正岡子規が書いています。

小川芋銭研究センター学芸員 秦 美紀子



↑「ホトトギス」

明治43年4月25日号掲載 「夜の蚕屋」